



市民アイ

ボランティアグループののぎく

代表 浦井 公子さん



龍谷大学生 持ち込み企画 有田市 魅力発信プロジェクト No.2

龍谷大生による魅力発信プロジェクトの第2弾の取材は5月の中旬に行われました。学生たちを乗せた車は、あるものを探しに、山の上のみかん畑へと向かいました。



思いがけない特産品

▼みかんの香

今回、私たちはみかん農家の山崎佳彦さん（みかん畑へ案内してもらった。「一般的な「畑」というのには似合わない急な斜面で、木々の間を車で走って行く。山の斜面がみかんの木で埋まっている。今まで見たことがない光景。なんだかそれだけでエキサイティングだ。車から降りると、これまた嗅いだことのない甘酸っぱい香りがした。みかんの花の香りである。そう、私たちは今回これを取材するためにやってきた。シーズンになるとその甘酸っぱい香りは市内を包むという。花の香りがまち

▼新しい発見

初めて見たみかんの花はきれいな白色で、想像していたより小さかった。畑の中、みかんの花を観察しようとして近くで見ると花びらの枚数がそれぞれ異なっていることに気づいた。（4枚だったり、5、6枚だったり…）あとで調べてみると、どうやら通常みかんの花の花びらは5枚だが、個体変異して4枚だったり、6枚になることもあるようだ。当たり前となっていたモノもよく見てみると様々な発見があることが分かった。



花にまつわる思い出を語る山崎さん

この花の活用方法について山崎さんにうかがうと、独特な香りと酸味があるみかんの花のはちみつがあるということだ。みかんの花は咲いてから10日ほどで散ってしまうらしい。みかんの実がなる前のわずかな期間に咲く花。これが持つ魅力をもっと多くの人に伝えられればと思った。

今まで何度か有田市には訪れましたが、みかん畑に行つたのは初めてでした。山を登るとそこからは有田市を見渡すことができ、山に囲まれ、その間を有田川が流れている景色はとても綺麗でした。いつまでも眺めていたいと思いました。食べさせてもらったフンタンはともおいしく、有田の豊かな自然の恵みを体全体で感じる事ができました。

龍大生スナッ



フンタンおいしいっ!

「のぎく」は月に一度としてこの施設を訪問し、デイサービスの利用者への対面朗読を行っています。利用者の皆さんは毎月「のぎく」が来られるのを心待ちにされているそうです。この活動を10年以上続けられている「のぎく」の方々に活動についてうかがいました。



ボランティアグループ のぎく
浦井 公子さん（右）
松下 喜久子さん（左）

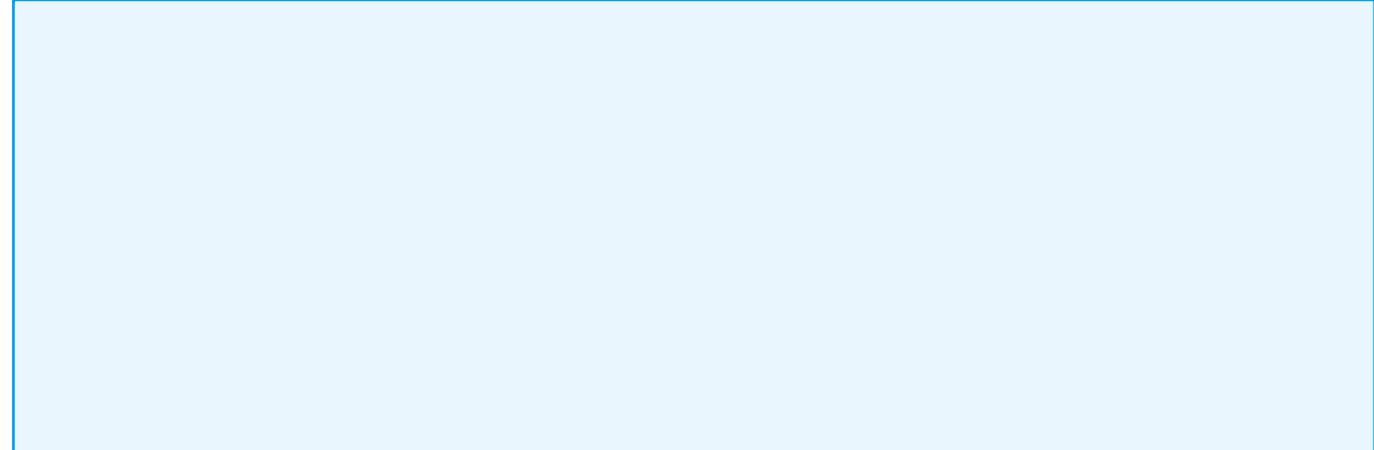
5月23日（月）、有田市社会福祉協議会のデイサービスで、ボランティアグループ「のぎく」による対面朗読が行われました。

この日は、東北地方の民話や、童話などが朗読され、集まった方々は話の展開を楽しみに、真剣に聞き入っていました。中でも宮原町にある太刀宮神社の伝説「ふしぎな刀」の朗読では、身近な場所の登場に、皆さん興味津々。最後は「ええ話やなあ」と拍手を送っていました。

「始められたきっかけは何ですか？」
もともと別のボランティアグループで対面朗読のために施設を訪れていたときに、「デイサービスの方でも」とお誘いをいただき、「のぎく」として活動を始めました。その後、「養護老人ホーム長寿荘でも活動してほしい」という声もあり、そちらでも月に一度活動させていたたいです。

「今後の抱負を教えてください」
朗読を通じて、皆さんが笑顔になり、楽しんでいただけていることがなにより喜びです。できれば仲間を増やしながら、これからも続けられるところまでがんばっていきたいと思います。

広告



広告

